

2025 年度
**海外総合実習
報告書**



北海学園大学経営学部

Contents

Part One. 海外総合実習

1. 世界を舞台に学ぶ—経営学部への挑戦	3
2. 準備から始まる本格的な学び	3
3. ハワイでの挑戦	4
4. 成長を実感する3週間	4
5. 事前学習スケジュール (2025年度)	5
6. 実地研修スケジュール (2025年度)	5
7. ハワイの紹介	6
8. ハワイ大学の紹介	8
9. NICEプログラム1 (授業について)	10
10. NICEプログラム2 (課外活動)	12
11. 道内企業訪問1 札幌グランドホテル	14
12. 道内企業訪問2 道新アクセス	16
13. ハワイ企業訪問1 Sheraton Waikiki & Royal Hawaiian Hotel	18
14. ハワイ企業訪問2 Studio Rim Hawaii	20
15. ホームステイ	22
16. ハワイでの生活	24
17. 総括1	26
18. 総括2	28

Part Two. 北海学園大学経営学部の英語

1. 北海経営English (Hokkai Business English : HBE)	30
--	----



シェラトンワイキキとロイヤルハワイアンホテル

Part One. 海外総合実習

世界を舞台に学ぶ—経営学部挑戦

北海学園大学経営学部では、グローバル社会で活躍できるビジネスパーソンの育成を目指し、「北海経営 English (Hokkai Business English : HBE)」を展開しています。1・2年次の「総合実践英語」、3年次の「ビジネス英語」を通して段階的に英語運用力を高めます。そんなHBEのひとつの挑戦的プログラムとして位置づけら

れているのが「海外総合実習」です。

海外総合実習は単なる語学留学ではありません。学生は海外の実際のビジネス環境に触れ、企業訪問や現地ビジネスパーソンとの交流を通して、教室で学んだ経営学と英語を実社会の中で試します。「学ぶ」から「使う」へ。その転換を体験する3週間です。

準備から始まる本格的な学び

海外総合実習は、出発前からすでに始まっています。春学期には、訪問予定企業や関連業界についての調査を進め、経営戦略や市場動向を分析します。専門教員の指導のもと、北海道内の企業を訪問し、実際の経営現場を見学するとともに、企業担当者へのインタビューを通してリアルなビジネスの姿を学びます。

こうした調査成果は英語でまとめられ、現地でのプレゼンテーションへとつながります。英語で専門的内容を発信する準備を重ねることで、学生は自信と表現力を身につけていきます。また、オンライン英会話やeラーニングも活用し、実践的なコミュニケーション能力の向上に取り組みます。



札幌グランドホテルを訪問

ハワイでの挑戦

現地研修は、ハワイ大学マノア校での語学研修と企業訪問を柱として展開されます。語学授業では、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に、実践的な英語力を磨きます。さらに、ハワイ大学の学生との交流活動を通じて、多様な価値観や文化背景に触れ、自らの視野を広げていきます。

企業訪問では、事前に準備した企業分析を英語で発表し、現地ビジネスパーソンから直接フィードバックを受けます。英語で意見を述べ、質問に答え、議論を交わす経験は、学生にとって大きな挑戦であり、同時に大きな成長の機会となります。

成長を実感する 3 週間

海外総合実習を終えた学生たちは、語学力の向上だけでなく、「自分の意見を英語で伝えられた」という確かな手応えを持って帰国します。日本と米国の企業文化を比較する中で、グローバルビジネスの多様性を理解し、自らの将来像をより具体的に描けるようになります。

このプログラムは、英語力の向上にとどまらず、主体性、挑戦心、そして国際的視野を育てる学びの場です。教室での学びが世界とつながる瞬間を体験できることこそ、海外総合実習の最大の魅力といえるでしょう。



デューク・カハナモク像前で集合写真

事前学習スケジュール(2025 年度)

4 月	オリエンテーション 英語課題開始 ハワイの地理・歴史・文化 企業分析および業界分析の方法
5 月	日本の産業に関する調査 北海道の企業に関する調査 産業と企業に関するレポートの作成
6 月	企業訪問 1 (札幌グランドホテル) 企業訪問 2 (道新アクセス) プレゼンテーション準備
7 月	プレゼンテーション準備 出発前の留意点の確認
8 月	プレゼンテーション準備 旅行会社によるオリエンテーション

実地研修スケジュール(2025年度)

第 1 週	8 月 24 日 (日) 出国。ホノルル空港到着後ホストファミリーと対面。 8 月 25 日 (月) ハワイ大学にてプレースメントテストとオリエンテーション 8 月 26 日 (火) 英語授業開始
第 2 週	英語授業 9 月 02 日 (火) フラ・ワークショップ 9 月 04 日 (木) 企業訪問 1 (Sheraton Waikiki & Royal Hawaiian Hotel) 9 月 05 日 (金) 企業訪問 2 (Studio Rim Hawaii)
第 3 週	英語授業 9 月 12 日 (金) 修了式 9 月 13 日 (土) ホストファミリーとのお別れ。ホノルル空港より米国出国。
	9 月 14 日 (日) 日本帰国。羽田空港経由で新千歳空港到着。

ハワイの紹介

経営情報学科 2 年 柳川果歩

概要

ハワイは太平洋のほぼ中央に位置し、ハワイ島やオアフ島などの8つの主要な島と100以上の小島から成る島々です。アメリカ合衆国の50番目の州であり、州都はオアフ島のホノルル市、人口は約120万人です。公用語は英語とハワイ語ですが、日常のコミュニケーションでは英語が主に使われています。日本との時差は-19時間で、日本のほうがかなり進んでいます。

年間を通して温暖で安定した気候が特徴ですが、私たちの滞在中はちょうどハリケーンが接近しており、雨が降ることも多く、少しじめじめと感じる日もありました。それでも基本的には湿度が低く、暑いながらも比較的過ごしやすい環境でした。

ハワイの州花はハイビスカスで、「神様に捧げる花」ともいわれています。赤や黄色、ピンクなど、色鮮やかな花が街中を彩っていました。また、大学構内でもよく見かけたのはプルメリアという白い花で、甘い香りが印象的でした。レイや髪飾りにもよく使われ、ハイビスカスと並ぶハワイの象徴的な花といえます。

歴史

ハワイの歴史は、約1300年以上前にポリネシア人が最初に移住したことから始まります。19世紀初頭にはカメハメハ大王がハワイ諸島を統一し、ハワイ王国を建国しました。その後、西洋との交流によって近代化が進み、20世紀には砂糖やパイナップルの農園が経済の中心となりました。労働力として多くの移民が世界各地から集まり、現在の多文化社会の礎を築きました。

外国人の少ない日本でずっと暮らしてきた私にとって、ハワイでの生活はとても新鮮で、多様性を肌で感じられる貴重な経験になりました。さまざまな人種の人々

が共存し、互いの文化を尊重し合って暮らしていることが印象的でした。

文化

移民の歴史やアメリカへの併合を経ても、ハワイ語やフラダンスなどのハワイ独自の文化は今も大切に守られています。私たちもこの海外実習を通して、いくつかのハワイ語を学びました。たとえば「アロハ」はこんにちはや愛を意味し、人と人とのつながりを大切にするハワイの精神を表しています。「マハロ」はありがとうという意味で、フラダンスの振り付けにも登場しました。そして「オハナ」は家族という意味です。ホストファミリーに「We are ohana」と言ってもらえたことがとても嬉しく、心に残っています。ハワイの人々の温かさや、互いを思いやる文化を象徴する言葉だと思います。

ハワイの食文化は、多民族社会の歴史を背景に、さまざまな国の料理が融合して生まれたものです。代表的な料理としてまず挙げられるのが「ロコモコ」です。白いご飯の上にハンバーグと目玉焼きをのせ、グレービーソースをかけた一皿で、ハワイの定番家庭料理として親しまれています。次に「ボケ」は、生のマグロやサーモンなどを醤油やごま油、海藻などと和えた料理です。現在では、ボケボウルとしてご飯の上にのせたスタイルが人気です。また、「スパムむすび」もハワイを代表するローカルフードの一つです。これは、焼いたスパムをご飯の上にのせ、海苔で巻いたシンプルな料理で、日本のおにぎりに似ています。コンビニやカフェなどでも広く販売され、ハワイのソウルフードとして定着しています。

このほかにも、にんにく風味のソースで味付けした「ガーリックシュリンプ」、ポルトガルから伝わった揚げドーナツ「マラサダ」、豚肉をタロイモの葉で包んで蒸した「ラウラウ」など、多彩なローカルフードが楽しめます。

日本とハワイ

前述したように、ハワイには19世紀後半から多くの日本人が移民として渡り、農園などで働きながらコミュニティを築きました。そのため、現在でも日系人の存在は大きく、日本文化も生活の中に自然に溶け込んでいます。ハワイ出雲大社や、京都の平等院鳳凰堂を模して建てられた平等院テンプルハワイなど、日本を感じられる場所も多くあります。

また、日本からの観光客も非常に多く、ワイキキ周辺では日本語の看板やメニューをよく見かけます。お店のスタッフの中にも日本語を話せる方が多く、外国でありながらどこか安心感のある空気を感じました。



Introduction to Hawaii

Kaho Yanagawa

Overview

Hawaii is located almost in the center of the Pacific Ocean. It is made up of eight major islands, such as the Island of Hawaii and Oahu, as well as more than 100 smaller islands. Hawaii is the 50th state of the United States. The state capital is Honolulu on Oahu, and the population is about 1.2 million. The official languages are English and Hawaiian, but English is mainly used in daily communication. The time difference between Japan and Hawaii is 19 hours, so Japan is far ahead.

Hawaii is known for its warm and stable climate throughout the year. However, during our stay, a hurricane was approaching, so it often rained and some days felt humid. Even so, the humidity is usually low, and although it is hot, the weather is generally comfortable.

The state flower of Hawaii is the hibiscus, which is also called “a flower offered to the gods.” Brightly colored hibiscus flowers in red, yellow, and pink decorated the streets. On university campuses, we often saw plumeria, a white flower with a sweet fragrance. It is commonly used for leis and hair decorations and is another symbolic flower of Hawaii, along with the hibiscus.

History

The history of Hawaii began more than 1,300 years ago when Polynesians first settled on the islands. In the early 19th century, King Kamehameha unified the Hawaiian Islands and established the Kingdom of Hawaii. Later, contact with Western countries led to modernization, and in the 20th century, sugar and pineapple plantations became the center of the economy. Many immigrants from around the world came to work on these plantations, which laid the foundation for Hawaii's multicultural society today.

For me, having lived in Japan where there are relatively few foreigners, life in Hawaii was very fresh and meaningful. I was able to experience diversity firsthand. It was impressive to see people of many different backgrounds living together and respecting each other's cultures.

Culture

Despite its history of immigration and becoming part of the United States, Hawaii has carefully preserved its unique culture, such as the Hawaiian language and hula dance. Through this overseas training program, we also learned some Hawaiian words. For example, “aloha” means hello and love, and it represents the Hawaiian spirit of valuing human connections. “Mahalo” means thank you and also appears in hula dance movements. “Ohana” means family. When our host family said, “We are ohana,” I felt

very happy, and those words remain in my heart. I think this word symbolizes the warmth of the Hawaiian people and their culture of caring for one another.

Hawaiian food culture was created through the blending of cuisines from many countries, reflecting its multicultural history. One of the most famous dishes is loco moco. It consists of white rice topped with a hamburger patty, a fried egg, and gravy sauce, and it is a popular home-style dish in Hawaii. Another well-known dish is poke, which is made by mixing raw tuna or salmon with soy sauce, sesame oil, and seaweed. Today, poke bowls served on rice are especially popular. Spam musubi is also a representative local food. It is a simple dish made by placing grilled Spam on rice and wrapping it with seaweed, similar to Japanese onigiri. It is widely sold at convenience stores and cafés and has become a Hawaiian soul food.

In addition, there are many other local foods, such as garlic shrimp flavored with a garlic-based sauce, malasadas, which are fried donuts introduced from Portugal, and lau-lau, which is pork wrapped in taro leaves and steamed.

Japan and Hawaii

As mentioned earlier, many Japanese immigrants came to Hawaii from the late 19th century and built communities while working on plantations. As a result, people of Japanese descent still make up an important part of the population, and Japanese culture is naturally integrated into daily life. There are many places where you can feel Japanese culture, such as the Hawaii Izumo Taisha Shrine and the Byodo-In Temple Hawaii, which was modeled after the Phoenix Hall of Byodo-In in Kyoto.

In addition, there are many tourists from Japan, and around Waikiki, it is common to see signs and menus written in Japanese. Many shop staff can speak Japanese, and even though Hawaii is a foreign country, I felt a sense of comfort and familiarity.



ハワイ大学の紹介

経営学科 2年 宮村里奈

ハワイ大学マノア校

今年の夏、私たちが通ったのはハワイ州オアフ島にあるハワイ大学マノア校です。ハワイ大学は10個のキャンパスから成り、マノア校は世界約130の国と地域から約19,000名の学生が学ぶ、ハワイ最大かつ最も知名度の高い大学です。さまざまな国や地域から留学生を受け入れており、整った環境の中で英語を学ぶことができます。ハワイ大学には複数の語学研修プログラムがあり、今回私たちは「3-week NICE プログラム」に参加しました。学生数が多いこともあり、キャンパスの敷地はとても広く、メインエリアであるキャンパスセンターや、ハワイのローカルフードを販売する学食など、3週間では回りきれないほどたくさんのお店がありました。中でも印象的だったのはBook Storeというショップで、大学のパーカーやノート、バッグなどが販売されています。北海学園の友達とバレーボールの試合を観に行く前に、お揃いのTシャツを買ったのは良い思い出です。キャンパス内にはいたるところにテーブルやベンチが設置されていて、多くの学生がそこを活用して勉強していました。常時テーブルが設置されているのは、雪が降らないハワイの気候と、約2万人という学生数を誇るマノア校ならではの思い出です。

3週間で感じたこと

3週間通ってみて、私は「学生主体の大学」だと強く感じました。数多くのイベントやフリーマーケット、NICEプログラムのインターチェンジなど、自ら行動している学生の姿をたくさん見ることができ、「すごいな」と思うと同時に、自分もやってみたいという気持ちが湧いてきまし



た。中でも印象に残ったのは、キャンパスセンター前で行われていた「お題に沿って自由に書く」イベントです。この“書く”というのはノートに文字を書くのではなく、大学生の全身をボードに見立てて書き込むというユニークなものでした。お題は“What is your dream vacation?”や“What brings you peace?”などで、現地の学生と話しながら書き込む時間は新しい体験でした。その日の夜にはパーティーもあり、イベントで出会ったUH（ハワイ大学）の学生たちが誘ってくれました。ハワイ大学は、留学生の私たちにも明るく声をかけてくれるアットホームな雰囲気があり、とても過ごしやすかったです。また、授業も学生主体のスタイルで行われました。1日4時間の授業の中で特に印象に残ったのは「インタビュー授業」です。事前に取材したいテーマや質問を考え、実際に現地の人に英語でインタビューを行います。私たちはUH生に「ハワイの食べ物で一番好きなもの」や、観光客に「ハワイにきた理由」を質問しました。最初は知らない人に英語で話しかけることに緊張しましたが、勇気を出して話しかけると、皆とても親切に答えてくれました。母国語ではない言葉でインタビューをするという体験は、留学ならではの貴重な経験だったと思います。

まとめ

ハワイ大学では学生同士の距離が近く、関わる機会が多くありました。UHの学生だけでなく、NICEプログラムのクラスメイトである他大学の学生とも積極的に交流できました。クラス内は「日本語禁止」というルールがあり、最初は戸惑うこともありましたが、次第にみんな英語で話すことに慣れていきました。日本人同士でもアクセントの違いや新しい単語を知るなど、多くの発見がありました。同じ大学でも、ハワイ大学では規模の大きさや環境の違いから、学生が日々どんどん主体的になっていく姿を間近で見ることができました。その姿を見て「自分も一緒に頑張りたい」と思い、授業外でも“Only English”を意識したり、空いている時間に積極的に声をかけてみると、これまであまりしたことのない行動に挑戦できました。その中で、新しい自分を発見することもできたと思います。今回の留学は「ハワイ」でしたが、多国籍で多文化な環境の中で過ごした3週間は、新しい刺激に満ちたとても貴重な経験となりました。

University of Hawaii

Rina Miyamura

University of Hawai'i at Mānoa

This summer, we studied at the University of Hawaii at Mānoa on the island of O'ahu in Hawaii. The University of Hawaii has ten campuses, and Mānoa is the largest and most famous one. About 19,000 students from around 130 countries and regions study there. The university accepts many international students, and it is a good place to learn English.

The University of Hawaii has several language programs, and we joined the three-week NICE Program. Because there are many students, the campus is very large. There are many places such as the Campus Center and cafeterias that sell local Hawaiian food, so we could not see everything in just three weeks.

One place I especially liked was the Bookstore. It sells university hoodies, notebooks, and bags. Before going to watch a volleyball game with my friends from Hokkai-Gakuen University, we bought matching T-shirts there, and it became a good memory.

There are many tables and benches around the campus, and many students study there. I thought this was possible because Hawai'i does not have snow and because Mānoa has about 20,000 students.

What I Felt in Three Weeks

After studying there for three weeks, I strongly felt that the University of Hawaii is a student-centered university. I saw many students taking part in events, flea markets, and NICE Program exchanges. I thought they were amazing, and I also wanted to try new things myself.

One event that left a strong impression on me was held in front of the Campus Center. In this event, students wrote freely based on a theme. However, they did not write in a notebook. They wrote directly on each other's bodies using them like boards. The themes were questions such as "What is your dream vacation?" and "What brings you peace?"

Talking with local students while writing was a new experience for me. That night, there was also a party, and UH students we met at the event invited us. The University of Hawai'i has a friendly atmosphere, and even international students are welcomed warmly, so it was easy to feel comfortable there.

Classes were also student-centered. We had four hours of classes each day, and the most memorable one was the interview class. We prepared topics and questions first, and then we interviewed local people in English. We asked UH students questions like "What is your favorite Hawaiian food?" and asked tourists "Why did you come to Hawaii?"

At first, I was nervous about talking to strangers in English, but when I tried, everyone answered kindly. Interviewing people in a language that is not my native language was a very valuable experience that I could only have through studying abroad.

Conclusion

At the University of Hawaii, students are close to each other and have many chances to communicate. I was able to talk not only with UH students but also with classmates from other universities in the NICE Program. In class, there was a rule of "No Japanese." At first, it was difficult, but little by little, everyone got used to speaking English. Even among Japanese students, we noticed differences in accents and learned new words.

Although it is also a university like mine in Japan, the large size and special environment of the University of Hawai'i helped students become more active. Seeing this made me think, "I want to try harder too." Because of that, I tried to use only English outside of class and started talking to people during my free time. These were things I did not often do before. Through this experience, I was able to discover a new side of myself.

This study abroad program was in Hawaii, but the three weeks I spent in a multicultural environment were full of new experiences and became very meaningful to me.



NICE プログラム 1 (授業について)

経営学科 2 年 山下大翔

NICE プログラムについて

私たちはハワイ大学にて行われている NICE プログラムに参加してきました。この“NICE”には、New Intensive Courses in English という意味があり、会話を中心としてコミュニケーション能力を伸ばし、異文化理解を深めることを目的とした英語集中コースが開講されています。このプログラムは、年に数回開講される 10 週間のものや、夏と冬にそれぞれ開講される 3 週間のコース、ビザなしのパートタイムコースもあります。私たちが参加したのはその中の夏の 3 週間のコースです。プログラムの初日は参加者全員がホールに集められてハワイ大学での過ごし方についてだったり、授業や教師の説明がされました。参加者は 150 人程いましたが、ほぼ全員が日本各地の大学から参加してきている人で年齢もほぼ同年代でした。個人で参加している人も何人かいました。全体への説明のあとは、10 数人ずつのグループに分けられて校内を案内するツアーがありました。ハワイ大学はとても広く、色々な建物や自然があり、とてもワクワクしたのを感じています。ツアーのあとには参加者一人一人の英語レベルを測るための一対一の面接テストがありました。内容は相手の先生によって大きく変わるようでしたが、文法の正しさよりもコミュニケーションのスムーズさが見られているようでした。クラスは Advanced、High Intermediate、Intermediate、High Basic、Basic の 5 つのレベルで、1 クラス 15 人程度の 10 クラスに分けられました。

授業について

授業は月曜日を除いた平日の 12 時半から 16 時 20 分まで行われました。授業内容も先生ごとに大きく違っており、配布された冊子に従って進むクラスもあれば全く関係のないことをやるクラスもありました。しかし、どのクラスでもプログラムの基本理念である Only English に則って授業は進行されました。また、コミュニケーションに重きを置いているので、ペアワークやプレゼンなども、どのクラスでもやっていたようです。そして英語の表現だけでなく、ハワイの言語や文化についての勉強もしました。授業は教室で座って行うものだけでなく、教室の外に出て現地学生と交流することもありました。現地学生との交流も 2 パター

ンあり、プログラム参加者と交流する相手として立候補した Interchanger と呼ばれる人たちとの会話と、もう一つは自分たちで道行く現地学生を選んで話しかけに行くインタビューを行いました。現地学生は皆とてもいい人で、話しかけると優しく丁寧に対応してくれました。授業も現地学生との交流も全て英語で行われるので、間違いを恐れずに発言すればその分英語力が向上していくのを感じられました。また、授業としてフラダンスを体験する日もありました。プログラム参加者の半分ずつが授業時間の前半後半で体育館に集められて、みんなで踊りを練習しました。私はもともとフラダンスについてほとんど何も知らなかったのですが、踊りにストーリーがあり動作の一つ一つに意味があると知り驚きました。フラダンスは一個一個の動きはシンプルでしたが、それを最初から最後まで続けて踊ろうとすると途中で忘れてしまっていて難しかったです。しかし、楽しくハワイの文化に触れることができたのでとてもいい体験でした。3 週間のプログラムの最終週の授業ではペーパーテストではなくプレゼンを行い、最後の授業ではやることは終わっていたのでクラスメイトや先生と会話しながら楽しく終わりました。プログラムの最終日には Graduation Ceremony と呼ばれる卒業パーティーが、ワイキキ近郊のゴルフ場の建物で行われました。担当してくれた先生から生徒一人ひとりに修了証明書を手渡ししてもらいました。式が終わったあとは快晴のもとゴルフ場を背景にクラスメイトや先生と記念に写真を撮影したりしました。この 3 週間は色々な大変なこともありましたが、一緒にハワイに行った大学の皆や友達になったクラスメイトと楽しく学んで過ごすことができました。



NICE Program 1 (About the classes)

Hiroto Yamashita

About the NICE Program

We participated in the NICE program held at the University of Hawai'i. "NICE" stands for New Intensive Courses in English. This program focuses on conversation and aims to improve communication skills and deepen understanding of different cultures.

The program offers several types of courses, such as a 10-week course held a few times a year, 3-week courses in summer and winter, and part-time courses that do not require a visa. We joined the 3-week summer course.

On the first day, all participants gathered in a hall and received explanations about life at the University of Hawai'i, classes, and teachers. There were about 150 participants, and most of them were Japanese students from universities across Japan. Many were around the same age, although some people joined individually.

After the general orientation, we were divided into groups of about ten to fifteen people and went on a campus tour. The University of Hawai'i campus is very large and has many buildings and a lot of nature, which made us feel excited. After the tour, each participant took a one-on-one interview test to check their English level. The content of the interview differed depending on the teacher, but it seemed that smooth communication was valued more than grammatical accuracy. Classes were divided into five levels: Advanced, High Intermediate, Intermediate, High Basic, and Basic. There were about ten classes in total, with around fifteen students in each class.

About the Classes

Classes were held from 12:30 p.m. to 4:20 p.m. on weekdays except Monday. The class content varied greatly depending on the teacher. Some classes followed the textbook, while others did activities not related to it. However, all classes followed the program's basic rule of "Only English." Since the program focused on communication, all classes included pair work and presentations.

In addition to learning English expressions, we also studied the Hawaiian language and culture.

Classes were not only held in classrooms; sometimes we went outside to interact with local students. There were

two types of interactions. One was talking with volunteers called Interchangers, who applied to communicate with program participants. The other was interviewing local students by approaching them on campus. All the local students were very kind and responded politely when we talked to them. Because both classes and interactions with local students were conducted entirely in English, we felt that our English skills improved as we spoke without being afraid of making mistakes.

One day, we also experienced hula dancing as part of the class. Half of the participants gathered in the gym during the first half of the class, and the other half during the second half, and we practiced dancing together. I knew almost nothing about hula dancing before, so I was surprised to learn that each movement has a meaning and tells a story. Although each movement is simple, it was difficult to remember all of them when dancing from start to finish. Still, it was a very enjoyable experience and a great way to learn about Hawaiian culture.

In the final week of the three-week program, we gave presentations instead of taking a test. In the last class, all activities were finished, so we enjoyed talking with our classmates and teachers. On the final day, a graduation ceremony was held at a golf course near Waikiki. Each student received a certificate directly from their teacher. After the ceremony, we took photos with our classmates and teachers in front of the golf course under the clear blue sky.

Although there were some difficult moments during these three weeks, we were able to spend a meaningful and enjoyable time learning English with students from our university and classmates who became good friends.



NICE プログラム 2 (課外活動)

経営学科 2 年 近藤葵

月曜日の課外活動

NICE プログラムでは毎週月曜日、計 2 回学校外での活動を行います。活動の時間はプログラムの授業時間と同じく約 4 時間です。事前に場所を先生が決めているクラスや行きたい場所を出し合って多数決などで決めるクラスがあり、行く場所はクラスによって異なります。学割が使えるところもあるので学生証があるとお得です。活動中にインタビューをする課題が出されるクラスもありました。ハワイは夜から朝方まで少し雨が降りますが、基本的にハリケーンが近づいていないときは晴れているので屋外の活動も心配ありません。ハードではありますが朝方にダイヤモンド・ヘッドに登ったこともあったそうです。

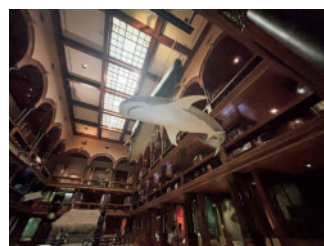
私のクラスはホノルル動物園とビショップ博物館に行きました。ホノルル動物園はこの課外活動で行ったクラスが多く、学園生と会うこともありました。動物園は敷地が広く時間内に周りきるのには難しいですが、説明ももちろん英語で動物の英単語は小学校の頃に学んだもの思い出されてよかったです。その日は祝日だったため子供連れのお客さんが多くて微笑ましかったです。私は担任の先生と英語で話しながら園内を見て回りました。先生は背景が同化している爬虫類や亀を見つけるのがすごく早く、私は全く見つけることができないのでいるところを何回も教えてくれました。この動物園で私は初めて白いフラミンゴを見ました。また、鯉が見たことがないくらい大きくて驚きました。このクラスは昼食をみんなで食べるため、普段よりも 2 時間前に集まりました。動物園の近くの海に見えるカフェで海風に吹かれながら優雅な食事を楽しみました。そのカフェにはハンバーガーやロコモコなどのハワイ料理もありましたが、私は初めてエッグベネディクトを食べました。おしゃれでおいしかったです。動物園と昼食をクラスメイトと過ごしたことで仲が深まりました。

2 回目の活動のビショップ博物館では歴史を学べるハワイアンホールコンプレックス、恐竜とその時代について学べるキャッスルメモリアルビルディング、科学を学べるサイエンスアドベンチャーセンターを見て回りました。ハワイアンホールは 3 階建ての吹き抜けの洋館です。天井からは実物大の海の生き物が吊るされていて壮観です。ハ

ワイの王族の歴史や絵画から昔使われていた道具や楽器、編み物に器などたくさん見るものがありました。説明は英語とハワイ語の 2 つで記載されていました。キャッスルメモリアルは自分でデザインした恐竜を画面に登場させられるものや化石をスキャンして種類を鑑定できるものなど体験して楽しむことができました。恐竜の模型は近づくと動き出し鳴き声を聞くことができます。サイエンスアドベンチャーセンターでは火山やハワイ特有の自然環境について知ることができます。そして追加料金はかかりますが、プラネタリウムでハワイの星空、恐竜の世界、惑星の 3 種類の映像を見ることができます。

土曜日のオプションアクティビティー

私たちは土曜日に大学が主催する課外活動に任意で参加できます。この活動はハワイ大学のインターチェンジャーがガイドや写真撮影をしてくれるので交流ができて素敵な時間を過ごせます。今年は初めの活動の場所はパールハーバーで歴史を学ぶことができました。船に乗り海を移動して現地に向かい、下半分が沈んだと思われる船にありました。そこでは当時の船の構造がわかる図や慰霊碑を見ました。潜水艦に乗ることもできますが料金がすごく高かったので私は外観とミサイルを見るだけにしました。次の活動に私は参加することができませんでしたがマラマ・マウナルアでゴミ拾いやバナナボートを体験できるそうです。自分のスケジュールに合わせて参加を考えてみるのがいいと思います。参加者が多いので良い交流の機会になります。



NICE Program 2 (Off-Campus Activities)

Aoi Kondo

Off-Campus Activity on Mondays

As part of this program, students participate in two off-campus activities, which are held on Mondays. Each activity lasts around four hours, the same duration as a normal class.

The destinations are either decided by the instructor or chosen by students through discussion and voting. Because of this, each class visits different places and has its own unique experience. Some locations offer student discounts, so bringing a student ID is helpful.

In some classes, students are given tasks such as conducting interviews, which provide opportunities to communicate with local people. In Hawaii, light rain sometimes falls at night or early in the morning, but the weather is usually sunny, so outdoor activities can be enjoyed without much concern.

In Hawaii, light rain may fall from night to early morning, but as long as a typhoon is not approaching, the weather is generally sunny, so there is little concern about outdoor activities. Although the schedule can be physically demanding, some students even climbed Diamond Head early in the morning.

My class visited the Honolulu Zoo and the Bishop Museum. Many other classes also chose the zoo, and we were able to meet students from different classes there. Because the zoo is very large, it was difficult to see everything in a limited time. However, all explanations were in English, and I enjoyed recalling animal-related vocabulary that I had learned before.

Since that day was a public holiday, many families with children were visiting, and the atmosphere was warm and

friendly. I walked around the zoo while conversing in English with my homeroom teacher. The teacher was very good at spotting reptiles and turtles that were hiding in their surroundings, while I could not notice them at all. He



kindly pointed them out to me several times. I also saw a white flamingo for the first time and was surprised by how large the koi fish were.

On that day, our class met about two hours earlier than usual to have lunch together. We ate at a café near the zoo with a beautiful ocean view and enjoyed the sea breeze. I tried Eggs Benedict for the first time, and it was stylish and delicious. Spending time together helped us become closer as a class.

For our second off-campus activity, we visited the Bishop Museum. We explored the Hawaiian Hall, the Castle Memorial Building, and the Science Adventure Center. Each area focused on different topics, such as Hawaiian history, dinosaurs, and science.

The Hawaiian Hall is a three-story building with an open space in the center. Large models of sea creatures hang from the ceiling, creating an impressive view. The exhibits introduce Hawaiian royalty, traditional tools, music, and daily life, with explanations written in both English and Hawaiian.

At the Castle Memorial Building, we enjoyed hands-on activities such as creating our own dinosaurs and learning about fossils. The dinosaur models were especially exciting because they moved and made sounds.

In the Science Adventure Center, we learned about volcanoes and Hawaii's natural environment. There is also a planetarium with programs about stars, dinosaurs, and planets.

Students can also join optional Saturday activities organized by the university. These activities are guided by University of Hawaii students, who assist with communication and taking photos, making them enjoyable and meaningful experiences.

Optional Saturday Activity

This year, the first Saturday activity was held at Pearl Harbor. We traveled there by boat and learned about an important part of history. We saw a ship beneath the water and visited a memorial for those who lost their lives. There was also an optional submarine tour, but because it was expensive, I chose not to join. During these activities, University of Hawaii students known as interchangers, who support international students, participate with us, providing new opportunities for interaction.

Although I could not participate in the second Saturday activity, I heard that students participated in beach clean-up activities and banana boat rides. It is a good idea to think about it based on your own schedule. These activities offer great opportunities to make friends and share special moments together.

札幌グランドホテル

経営学科 2 年 門田美優

はじめに

今年度は、株式会社グランビスタ ホテル&リゾートが運営する札幌グランドホテルを訪問しました。札幌グランドホテルは1934年に開業し、北海道で最も歴史のあるシティホテルとして知られています。札幌市の中心部に位置し、観光やビジネスの拠点として多くの人に利用されています。今回の訪問では、ホテルという組織がどのように運営され、地域やお客様とどのように関わっているのかを学びました。

グランビスタホテルや札幌グランドホテルの魅力

グランビスタ ホテル&リゾートは、「地域の価値で、未来を変えていく。」という理念を掲げ、全国でホテルや観光施設を展開しています。その中でも札幌グランドホテルは、北海道の観光文化を象徴する存在です。長い歴史の中で、多くの人々の思い出や記念の場所となり、地元札幌市民や観光客からも親しまれています。ホテルに入ると、クラシックで落ち着いた雰囲気広がりが、歴史を感じさせる内装が印象的でした。重厚感のある建物でありながら、一方客室には最新の設備も整っており、伝統と現代が調和した空間になっています。こうした雰囲気からは、長年培われた「格式」と「おもてなしの心」が伝わってきました。また、レストランでは北海道産の食材を活かした料理が提供されており、地域の味を大切にしていることも印象的でした。観光客だけでなく地元の人々にも利用されるホテルであることから、地域に根ざした運営がなされていることが伝わってきました。

企業訪問で感じたこと

訪問当日は、まず初めにスタッフの方からホテルの歴史や経営方針について説明を受けました。特に印象に残ったのは、グランビスタ ホテル&リゾートが掲げる「地域の価値で、未来を変えていく。」という企業理念を、札幌グランドホテルが実際の運営の中で体現しているという点です。この方針には、「地域の文化や人々の魅力を活かしながら、ホテルという場を通して新しい価値を生み出す」という思いが込められているそうです。例えば、ホテルの

レストランでは北海道の旬の食材を積極的に取り入れ、地元農家や生産者とのつながりを大切にしています。単に食事を提供するだけでなく、北海道の食文化を発信する場としての役割を担っていることに感動しました。また質疑応答の際に、スタッフの方が話していた「ホスピタリティ・ファースト」という言葉も印象的でした。これは、すべての行動の中心に“お客様への思いやり”を置くという考え方であり、グランビスタ全体の基本姿勢でもあります。まずは仲間同士の信頼関係を大切にしているというお話もあり、こうした協力体制のもとで、お客様一人ひとりに最適なサービスを提供していることが伝わってきました。さらに、ホテル業務は宿泊や飲食だけでなく、イベント運営、施設管理、広報など多様な部門が協力して成り立っています。それぞれの部門が専門性を発揮しながらも、最終的には「お客様の満足」という共通の目標に向かって動いていることが印象的でした。

まとめ

今回の訪問を通して、ホテルという組織の多様さと奥深さを実感しました。表面的には宿泊や食事の提供が中心に見えますが、その裏では多くの人の努力と情熱によって一つのサービスが成り立っていることを知りました。特に、スタッフ一人ひとりの笑顔や丁寧な対応から、「お客様を第一に考える姿勢」が伝わり、強い印象を受けました。また、「地域とともに歩む」という考え方にも共感しました。札幌グランドホテルは単なる宿泊施設ではなく、札幌という街の魅力を伝える大切な存在だと感じます。私はこの訪問を通じて、授業で学ぶ組織や経営の理論を実際の現場で感じる貴重な機会となりました。伝統を守りながらも変化を恐れず挑戦を続ける札幌グランドホテルの姿勢を忘れず、これからの学びや将来の目標に生かしていきたいです。



Sapporo Grand Hotel

Misugu Monda

Introduction

This year, we visited the Sapporo Grand Hotel, which is operated by Granvista Hotels & Resorts. The Sapporo Grand Hotel opened in 1934 and is known as the oldest city hotel in Hokkaido. It is located in the center of Sapporo and is used by many people for sightseeing and business. Through this visit, I learned how a hotel organization is managed and how it connects with the local community and customers.

The Attractions of Granvista Hotels and Sapporo Grand Hotel

Granvista Hotels & Resorts has the company philosophy, “Changing the future through the value of local communities,” and operates hotels and tourist facilities across Japan. Among them, the Sapporo Grand Hotel is a symbol of Hokkaido's tourism culture. Because of its long history, it has become a place of memories and special moments for many people, and it is loved by both local residents and tourists.

When I entered the hotel, I felt a calm and classic atmosphere, and the interior design made me feel its history. Although the building has a strong and traditional appearance, the guest rooms are equipped with modern facilities. This shows a good balance between tradition and modern comfort. From this atmosphere, I could feel the sense of dignity and the spirit of hospitality that the hotel has built over many years.

In addition, the restaurants serve dishes using ingredients from Hokkaido, which shows that they value local food culture. Because the hotel is used not only by tourists but also by local people, I felt that it is closely connected to the local community.

What I Learned from the Company Visit

On the day of the visit, we first listened to an explanation from the staff about the hotel's history and management policy. What impressed me most was that the Sapporo Grand Hotel puts Granvista's philosophy, “Changing the future through the value of local communities,” into practice in its daily operations. This policy includes the idea of creating new value through the hotel while making use of local culture and people.

For example, the hotel restaurants actively use seasonal ingredients from Hokkaido and value relationships

with local farmers and producers. I was impressed that the hotel is not only a place to eat, but also a place that shares Hokkaido's food culture.

During the question-and-answer session, the staff mentioned the phrase “hospitality first.” This means putting care for customers at the center of all actions, and it is an important attitude throughout Granvista. They also said that they value trust among staff members, and I felt that this teamwork helps them provide the best service to each customer.

Furthermore, hotel operations are supported by many departments, such as accommodation, food and beverage, event management, facility maintenance, and public relations. Each department uses its own expertise, but all of them work toward the common goal of customer satisfaction.

Conclusion

Through this visit, I realized the diversity and depth of a hotel organization. At first glance, a hotel may seem to focus only on accommodation and meals, but behind the scenes, many people's efforts and passion support each service.

I was especially impressed by the smiles and polite attitudes of the staff, which showed their strong commitment to putting customers first. I also strongly agreed with the idea of growing together with the local community.

The Sapporo Grand Hotel is not just a place to stay, but an important presence that shares the charm of the city of Sapporo. This visit was a valuable opportunity for me to connect what I learn in class about organizations and management with real-world practice.

I would like to remember the attitude of the Sapporo Grand Hotel, which respects tradition while continuing to take on new challenges, and apply it to my future studies and goals.



道内企業訪問 2

道新アクセス

経営学科 2 年 山北采羽

はじめに

道新アクセスは北海道の地域社会と人々をつなぐ役割を果たしている企業です。新聞社の関連会社ということで、報道に関わるイメージを持っていましたが、実際にはより幅広い分野で地域の魅力を発信しており、北海道を代表する企業としての存在感を感じました。

道新アクセスの魅力

訪問前に公式サイトや SNS を調べたところ、道新アクセスの特徴は「広告」や「イベント」を単なる商業活動としてではなく、地域の課題解決や魅力発信の手段として捉えている点にあると感じました。例えば「北海道マラソン」や「札幌モーターショー」などの大型イベントの企画・運営を手がけ、地域の人々に楽しみを届けるだけでなく、観光や地域経済の活性化にも貢献しています。

さらに、デジタル事業にも力を入れており、SNS 運用サポートや Web 広告など、時代の変化に合わせた新しいメディア展開が進められています。こうした柔軟な姿勢からは、伝統的な新聞社グループに属しながらも新しい挑戦を恐れない「進化する企業」の姿が見えました。

また、社員に対する働きやすい環境づくりにも魅力的です。社員同士の距離が近く、意見を出し合える風通しのよい職場づくりが進められており、若手社員でも企画に積極的に関わることができるそうです。挑戦することを歓迎し、失敗を恐れず行動する社風は、変化を続けるメディア業界においてとても重要だと感じました。

こうした取り組みの一つとして、道新アクセスが主体となって運営する「DO BOX EAST」にも注目しました。札幌市東区にあるこの施設は、地域と人々、企業、学生をつなぐ複合型の交流拠点です。カフェやコワーキングスペース、イベント会場などが設けられており、地域の人々が自由に集まり、学び合い、発信できる“共創の場”となっています。単なるレンタルスペースではなく、地域の課題を解決したい人や新しい挑戦をしたい人を応援する「地域活性化のハブ」としての役割を担っており、まさに道新アクセスの「つなぐ力」を形にした取り組みだと感じました。ここでは地域企業の展示や学生との共同企画も行われており、メディア企業としての強みを生かしながら、リアルな交流の中で北海道の新しい可能性を生み出しています。

企業訪問にて感じたこと

訪問当日は、札幌市中央区の本社にて担当の方からお話を伺いました。担当の方はとても穏やかで話やすく、道新アクセスがどのようにして地域と企業、そして私たちをつないでいるのかを丁寧に説明してくださいました。印象に残ったのは、「私たちの仕事は“伝える”ことではなく、“つなぐ”ことです」という言葉です。広告やイベントを通して、企業の想いと地域の人々をつなぐことを使命としている姿勢に、深い共感を覚えました。

また、道新アクセスでは「道新グループの強み」を生かし、新聞だけでなく、リアルイベントやデジタル空間など多様なメディアを組み合わせた提案を行っています。こうした幅広い取り組みを通して、地域社会の発展に貢献している点がとても印象的でした。変化の速い時代において、伝統を守りながらも革新を続ける姿勢は、まさに現代の北海道企業の理想の姿だと感じました。

まとめ

今回の企業訪問を通して、道新アクセスは単なる広告会社ではなく、「北海道の未来をデザインする企業」であると感じました。地域の課題に寄り添い、人や企業、行政をつなぐ役割を担うその姿勢に大きな魅力を感じました。また、「伝える」だけでなく「共感を生み出す」ことを大切にする考え方から、ビジネスの本質は人とのつながりにあるのだと改めて気づかされました。

「地域に寄り添いながら、新しい挑戦を恐れない」。その言葉がまさに道新アクセスの精神を表しているように思います。これからも北海道の文化や経済の発展を支え続ける企業として、さらなる活躍が期待されます。私自身も今回の訪問を通して、地域とともに成長する企業の在り方について深く考えるきっかけを得ることができました。



Doshin Access

Kotoha Yamakita

Introduction

Doshin Access is a company that connects local communities and people in Hokkaido.

Because it is related to a newspaper company, I first thought it mainly worked in news and reporting. However, I learned that it is active in many different fields. Through its work, the company shares the charm of Hokkaido and has a strong presence as a leading local company.

Attractions of Doshin Access

Before the visit, I checked the official website and social media. I felt that one of the main features of Doshin Access is that it sees advertising and events not just as business, but as ways to solve local problems and share local charm.

For example, the company plans and manages large events such as the Hokkaido Marathon and the Sapporo Motor Show. These events bring enjoyment to local people and also support tourism and the local economy.

Doshin Access is also active in digital business. It supports SNS management and web advertising, showing that it is changing with the times. From this flexible attitude, I felt that Doshin Access is an “evolving company” that is not afraid of new challenges, even as part of a traditional newspaper group.

Another attractive point is the comfortable working environment for employees. The distance between staff members is close, and it is easy to share opinions. Even young employees can take part in planning projects. The company culture welcomes challenges and does not fear failure. I think this is very important in the changing media industry.

One important example of these efforts is DO BOX EAST, which is run by Doshin Access. This facility is in Higashi Ward, Sapporo, and it connects local people, companies, and students. It has a café, a coworking space, and event areas. People can gather freely, learn together, and share ideas.

DO BOX EAST is not just a rental space. It works as a hub for regional revitalization by supporting people who want to solve local problems or try something new. Local company exhibitions and joint projects with students are also held there. By using its media strengths, Doshin Access creates new possibilities for Hokkaido through real, face-to-face communication.

What I Felt During the Company Visit

On the day of the visit, I listened to a talk by a staff member at the head office in Chuo Ward, Sapporo. The person was very kind and easy to talk to, and explained carefully how Doshin Access connects companies, communities, and people like us.

The most impressive words were:

“Our job is not just to spread information, but to connect people.”

I strongly agreed with this idea of connecting the feelings of companies with local people through advertising and events.

Doshin Access also uses the strengths of the Doshin Group. It combines newspapers, real events, and digital media to make proposals. I was very impressed by how the company contributes to the development of local society through many different approaches. While protecting tradition, it continues to innovate, which I think is an ideal image of a modern Hokkaido company.

Conclusion

Through this company visit, I felt that Doshin Access is not just an advertising company, but a company that designs the future of Hokkaido. I was deeply attracted to its attitude of staying close to local issues and connecting people, companies, and local governments.

I also learned that the essence of business is human connection, not just delivering information, but creating empathy.

“Staying close to the community and not being afraid of new challenges” truly represents the spirit of Doshin Access.

I hope the company will continue to support the culture and economy of Hokkaido in the future. This visit also gave me a valuable chance to think deeply about how companies can grow together with their local communities.



Sheraton Waikiki & Royal Hawaiian Hotel

経営情報学科2年 荒川和輝

はじめに

今回私たちは、ワイキキを代表する高級ホテルであるシェラトンワイキキとロイヤルハワイアンホテルを訪問させていただきました。シェラトンワイキキは近代的でエネルギーな雰囲気が特徴で、特にファミリー層から高い人気を集めています。一方で、ロイヤルハワイアンホテルは長い歴史を背景にクラシックで優雅な空間が広がっていて、記念日などの特別な滞在選ばれています。実際に館内を見学しお話を伺う中で、2つのホテルが提供しているサービスの細やかな工夫の数々を肌で感じ取ることができました。

企業訪問で感じたこと

訪問の際、まず印象に残ったのはホテルのスタッフの皆さんの温かいおもてなしです。ロイヤルハワイアンホテルでは、私たちを迎える際にピンク色のレイやハワイの歌で歓迎してくださったことがとても心に残りました。この訪問の中で私が特に印象的だったのは客室・食事・サステナビリティへの取り組みです。客室では、部屋ごとの立地や窓からの景観に合わせて内装や家具の配置が工夫されており、その徹底ぶりに驚かされました。各部屋には“どのような宿泊体験を提供するか”という明確なテーマが設定されていて、滞在そのものが一つの体験としてデザインされている点にも感銘を受けました。また食事においては、両ホテルに雰囲気の異なった複数のレストランやバーがあり、宿泊客の国籍・年齢層・滞在目的に合わせて幅広い食体験を楽しめるよう工夫されていました。アメニティもただ充実しているだけではなく、その中には再利用が可能なオリジナルボトルや、サンゴに優しい日焼け止めなどが用意されていました。他にもホテル内の料理に積極的に地元食材を導入していたりと、たくさんのサステナビリティを推進する取り組みが行われていて、そこにはハワイの自然と資源を尊重し共に生きていくという姿勢が感じられました。

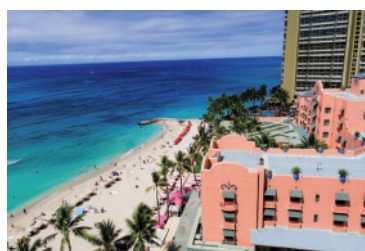
プレゼンテーションで学んだこと

今回のプレゼンテーションを通じて私が学んだことは、言葉の伝え方と経営学における課題へのアプローチの仕方です。私たちは、ハワイへ訪れる前から自分たちの言葉で内容を伝えられるよう、プレゼンテーションの準備を行ってきましたが、伝えたいことが伝えきれないと感じることがあり悔しさが残りました。見学の間

案内をしてくださった方の説明はもちろんすべて英語でしたが、私は不思議と普通の英語よりも聞き取りやすく感じました。これはホテルのスタッフが常にお客様への思いやりを持って、相手に伝わる言葉選びと話し方を心がけているためなのではないかと思いました。言語は違えど、聞き手の意識を強く持ち、相手の立場を思いやって言葉を伝えるということの重要性を再確認する機会となりました。今回のプレゼンテーションではいくつかの提案を提示させていただきましたが、そこには多くの課題がありました。そこから学んだことは、事業を考案する際には、実際の企業の文脈に落とし込んで考える力が重要だということです。その企業が持つ歴史やブランド、資本、さらにはそこで働く人々などといった様々な資源をよく理解した上で、その文脈に沿った実現性のある案を見出していくことが大切だと感じました。

まとめ

ハワイは多くの人にとって、非日常を味わうことのできる特別な場所であり、人生の休息の地です。今回の企業訪問を通して、その時間をどれだけ豊かに過ごしてもらえるかという、リゾートホテルとしての強い想いを感じました。ホテルは単なる宿泊施設ではなく、その土地の風土や文化を背景にした“体験の場”であることを学びました。ホスピタリティの追求は、地域の特色を活かしたサービスづくりに直結しており、これは私が大学で学びたい地域経営にも深く関わるものだと感じました。地域の魅力を理解し、それを最大限に活かすことでこそ、価値ある事業モデルが生まれるのだと思います。そして何より今回の訪問で実感したのは、ホスピタリティの根底にある人との関わりを大切にする姿勢です。どれほど機械化・マニュアル化が進んでも、お客様の心を動かすのは“人の温かさ”だと思います。両ホテルのスタッフがその信念を持って働いていることに強く感銘を受けました。私自身も相手の立場に立って考え、誠実に行動する姿勢を大切にしていきたいと思っています。



Sheraton Waikiki & Royal Hawaiian Hotel

Kazuki Arakawa

Introduction

We visited two of Waikiki's most famous luxury hotels, which are the Sheraton Waikiki and the Royal Hawaiian Hotel. The Sheraton Waikiki has a modern and energetic atmosphere, and it is very popular with families. On the other hand, the Royal Hawaiian Hotel has a long history and a classic, elegant feel. It is often chosen for special occasions like anniversaries. By visiting these hotels and talking to the staff, we learned about the many small but important details in their services.

What I Felt During the Visits

First, we were very impressed by the warm hospitality of the hotel staff. At the Royal Hawaiian Hotel, they welcomed us with pink leis and a Hawaiian song. It was a very memorable experience for us. During the visit, we focused on three main areas: guest rooms, dining, and sustainability. In the guest rooms, we were surprised to see how carefully the interiors and furniture were arranged to match the view from each window. Every room has a clear theme for the “staying experience.” We were impressed that the stay itself is designed as a special experience. Regarding dining, both hotels have many restaurants and bars with different styles. They offer a wide range of food for guests of different ages, nationalities, and purposes. Finally, we noticed their sustainability efforts. For example, they provide reusable bottles and reef-safe sunscreen as amenities. They also use many local ingredients in their dishes. We could feel their respect for Hawaii's nature and resources, and their commitment to living in harmony with the environment.

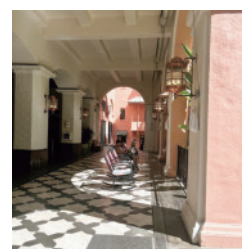
What I Learned from the Presentation

Through this presentation, we learned two important things. They are how to communicate our ideas effectively and how to approach challenges in business management. Before visiting Hawaii, we prepared hard so that we could speak in our own words. However, we felt we couldn't express everything we wanted to say,

which was frustrating. During our visits, the staff explained everything in English. Surprisingly, we found their English easier to understand than usual. We think this is because hotel staff always care about their guests and choose words that are easy for the listener to follow. We realized that in any language, the most important thing is to think from the listeners' perspective. Also, we suggested several ideas in our presentation, but we found many challenges. We learned that when we create a business plan, it is essential to consider the “context” of the company. We must understand its history, brand, resources, and people to create realistic and effective plans.

Summary

For many people, Hawaii is a special place to relax and escape from daily life. Through these company visits, we felt the hotels' strong passion for making the guests' stay wonderful. We learned that a hotel is not just a place to stay, but a “place for experience” based on local culture and nature. We believe that true hospitality is about using local charm to create better services. This is closely related to “Regional Management,” which we are studying at university. To create a successful business model, we need to understand and maximize the unique value of the region. Most importantly, we realized that human connection is the root of hospitality. Even if technology and manuals improve, we believe that “human warmth” is what moves people's hearts. We were very impressed that the staff at both hotels work with this belief. We want to value this attitude in our own lives: thinking from others' perspectives and acting with sincerity.



ハワイ企業訪問2

Studio Rim Hawaii

経営学科2年 杉本葉奈

訪問先について

今回、私たちは米国・ホノルルにある「スタジオリムハワイ (Studio Rim Hawaii)」を訪問しました。スタジオリムハワイは、ラジオ番組を通して日本と米国をつなぐ活動を行っているメディア制作会社です。番組のパーソナリティを務めているのは、徳重玲子さんです。徳重さんは、番組の企画から取材、収録、編集までをすべて一人で行っているそうです。日本ではチームで分担することが多いのに対し、米国では一人で自由に番組を作る「ワンマンDJ」というスタイルが一般的だと教えていただきました。「私はタレントでもディレクターでもなく、“クリエイター”なんです」と語っていた言葉がとても印象的で、自分の思いを自分の手で形にしていこうという強い情熱を感じました。また、スタジオ内には編集ブースや録音機材が整っており、実際の制作現場を間近で見ることができました。米国の空気や文化を大切にしながら、日本のリスナーに思いを届ける徳重さんの姿がとても印象的でした。

お話を聞いて感じたこと

徳重玲子さんのお話で特に印象に残ったのは、「情報を集める姿勢」と「発信の責任」についての考え方です。徳重さんは、普段からいろいろな場所や人から情報を集めることを大切にしているそうです。仕事だから仕方なくやるのではなく、日常の中で自然と情報を拾い、自分の関心に基づいて集めていると聞いて、心から好きなことを仕事にしている方なんだと感じました。また、「多分を語らない」という言葉も印象的で、確かめていないことを伝えると聞いた人が事実だと思い込み、さらに他の人へ広がる可能性があるため、正しい情報を丁寧に集め、責任をもって発信することの重要性を強調していました。一方で、ただ事実を並べるだけでは人の心に届かず、正確さを守りながらどうすれば多くの人に興味を持ってもらえるかを考える葛藤もあると聞き、情報を伝える仕事の奥深さを感じました。さらに、地域や文化に合わせて内容を変える工夫もされており、北海道向けには北海道の

話題、福岡向けには福岡のトピックを扱うなど、聞き手の関心に合わせる柔軟さに感銘を受けました。最後に、「消費者も制作者も楽しむことが大切」という言葉から、作る側の楽しさがそのまま伝わるスタジオリムハワイの温かい雰囲気の理由を感じ、私も将来、自分の好きなことを大切にしながら働きたいと思いました。

プレゼンテーションを通して

訪問の最初には、私たちが準備してきたプレゼンテーションを発表させていただきました。出発前から何度も練習を重ね、みんなで意見を出し合って内容を作ってきたので、本番を終えたときは大きな達成感がありました。海外での発表ということもありとても緊張しましたが、やり遂げられたことで自信につながりました。一方で、質疑応答の場面では英語でうまく受け答えできず、悔しい思いもしました。相手の質問を理解できても、すぐに英語で返せなかったり、言いたいことを正確に伝えられないなど、自分の英語力の課題を実感しました。この経験を通して、もっと英語力を高めたいという気持ちが強くなりました。次に同じような機会があれば、自分の言葉でしっかり伝えられるように努力していきたいと思います。

スタジオリムハワイでの訪問とプレゼンを通して、情報を発信することの責任や難しさ、そして伝えることの楽しさを学びました。また、準備から発表までを仲間と一緒にやり遂げたことで、チームで取り組む大切さや自分の成長も感じることができました。この経験は、これからの学びや将来を考えるうえで大きな糧になると思います。



Studio Rim Hawaii

Kanna Sugimoto

About the Place We Visited

This time, we visited Studio Rim Hawaii in Honolulu, Hawaii. Studio Rim Hawaii is a media production company that connects Japan and Hawaii through radio programs. The radio program is hosted by Reiko Tokushige. She plans the program, conducts interviews, records, and edits everything by herself. In Japan, radio programs are usually made by a team, but she told us that in Hawaii, the style of being a “one-man DJ” is more common. She said, “I am not a talent or a director, but a creator,” and this left a strong impression on me. I felt her passion for creating programs based on her own ideas. Inside the studio, there were recording and editing booths, and we were able to see the actual production environment up close. Ms. Tokushige's attitude of valuing Hawaiian culture while delivering her thoughts to listeners in Japan was very impressive.

What I Felt from Listening to Her Story

What impressed me most in Ms. Tokushige's talk was her attitude toward collecting information and her sense of responsibility as a sender of information. She said that she always tries to gather information from various places and people in her daily life. She does not collect information just because it is her job, but because she is genuinely interested in it. From this, I felt that she truly enjoys her work. Another memorable phrase was “Do not speak with ‘maybe.’” She explained that spreading unclear information can lead people to believe it is true and pass it on to others. This made me realize how important it is to carefully check facts and share accurate information responsibly. At the same time, she said that simply listing facts does not attract people, and she struggles to balance accuracy and interest. I also learned that she changes her content depending on the region, such as using topics related to Hokkaido for listeners there and topics related

to Fukuoka for that area. I was impressed by her flexibility in thinking about the audience. Finally, when she said that both creators and consumers should enjoy the content, I understood why Studio Rim Hawaii has such a warm atmosphere. This made me think that I also want to value what I like when choosing my future career.

Through the Presentation

At the beginning of the visit, we gave a presentation that we had prepared in advance. Before leaving Japan, we practiced many times and discussed the content together, so we felt a great sense of achievement after finishing the presentation. Because it was a presentation overseas, I was very nervous, but completing it gave me confidence. However, during the question-and-answer session, I could not respond well in English, which was frustrating. Even when I understood the questions, I could not answer quickly or express my thoughts clearly in English. Through this experience, I strongly felt the need to improve my English skills. If I have a similar opportunity in the future, I want to make an effort to communicate my ideas in my own words more confidently.

Through the visit and presentation at Studio Rim Hawaii, I learned about the responsibility and difficulty of sending information, as well as the joy of communication. In addition, by working together with my classmates from preparation to presentation, I realized the importance of teamwork and felt my own personal growth. I believe this experience will be a valuable foundation for my future studies and career.



ホームステイ

経営学科2年 佐藤美咲

ホストファミリーとの生活

私たちのホームステイは、ホストファザーににこにこ笑顔で迎えられ、貝殻のネックレスをつけてもらうところから始まりました。ホストファザーはジョークをよく言う明るい笑顔が素敵な方でいつも私たちを和ませてくれました。ホストマザーは先祖代々ハワイに住んでいて、毎日とてもおいしい夕食を作ってくれました。ハワイならではの料理に加えて、野菜、ご飯、主菜、デザートまでそろったビュッフェ形式の食事が楽しみで、どの料理も本当に美味しかったです。

夕食は毎日19時と決まっており、外出しているときは帰りの時間が厳しいこともありましたが、家で食べるご飯がとてもおいしかったので、できるだけ早く帰るようにしていました。また、週に2回の洗濯の日にはマザーが洗濯をしてくれ、戻ってきた洗濯物はふわふわでとてもいい香りがしました。その香りを感じるたびに、ハワイでも安心して過ごすことが出来ました。

ホストファミリーの2人は忙しく、話す時間はあまり取れませんでした。が話しかけた時は私たちに分かるようなスピードで話してくれたおかげで英語での会話を楽しむことが出来ました。

ホームメイトとの生活

私のホームステイ先はとても大きな家で、私たち以外にもたくさんの学生がホームステイしていました。中には1年間滞在している人や、ベルギーから来た留学生、日本の他大学の学生もいました。リビングにはみんながお土産で持ってきたお菓子が並べられていて、夕食後は

お菓子を囲みながら話したり、おすすめのお菓子を紹介し合ったりするのが毎晩の楽しみでした。お互いの国や文化、考え方、学校であったことについて話したりするのが楽しかったです。

1年以上滞在しているホームメイトには、ハワイで行った方がいい場所やマザーとファザーの話を聞かせてもらい、そのおかげでハワイやホストファミリーにもっと親しみを持てるようになりました。

同じ学校に通っていたホームメイトとは、放課後に一緒に出かけたり、ダイヤモンドヘッドに登ったり、最後の日の朝には、一緒に朝日を見に行きました。私たちがバスを乗り間違えた時には本当の家族のように心配してくれるなど、日々の中で本当に仲良くなれたと思います。

今は簡単に会うことの出来ないけれどそんなみんなと沢山話し沢山笑いあったのもハワイの思い出の大部分を占めています。

共同生活で学んだこと

初めは共同生活がうまくできるか不安もありましたが、夜にみんなで動画を見たり、英語だけで会話してみたり、ハプニングが起きて大笑いしたりするうちに、すぐに打ち解け、楽しむことが出来ました。

私たちの場合は3人部屋だったため、一人の時間はほぼありませんでしたが一人でいる時間がいらなくらいみんなと居る時間が大好きになりました。同年代の子とこんなに近い距離で生活できるのもこのプロジェクトのいいところだと思います。

日々失敗が多い私が慣れない土地で過ごすことが出来たのはホストファミリーと一緒に過ごしたホームメイトたちがいてくれたからだと思います。

帰国の日、離れるのが嫌で泣いている私たちに、ホストファザーは「ハワイには“さよなら”がないんだよ」と言いました。代わりに“アロハ”を使うそうです。だからまた来たら、いつでもおいでと言ってくれました。そんな温かい人たちと街に、また戻ってきたいと思いました。

ハワイで過ごした日々は、私の人生の中でも忘れられない大切な思い出です。いつかまた、ホストファミリーやみんなに会いに行きたいです。



Homestay Experience

Misaki Sato

Life with My Host Family

Our homestay began when our host father welcomed us with a smile. He gave us shell necklaces and greeted us kindly. He often told jokes and always made us feel relaxed. His bright smile helped us feel comfortable in our new life. Our host mother has lived in Hawaii for many years. She cooked very delicious dinners for us every day. We enjoyed Hawaiian food as well as vegetables, rice, a main dish, and dessert. The meals were buffet style, and every dish was very good.

Dinner was always at 7:00 p.m. When we went out, it was sometimes difficult to come home on time. However, the food at home was so delicious that we tried to return as early as possible. Twice a week, our host mother did our laundry. When we got our clothes back, they were soft and smelled very nice. Every time I smelled them, I felt safe and relaxed in Hawaii. Our host family was busy, so we did not have much time to talk. However, when we talked with them, they spoke slowly so that we could understand. Because of this, we were able to enjoy conversations in English.

Life with My Housemates

Our homestay house was very large, and many students stayed there. Some students stayed for one year, and others came from Belgium or from different universities in Japan.

In the living room, snacks brought from many countries were shared. After dinner, we often talked while eating snacks and introduced our favorite sweets to each other. This time became a daily enjoyment for us. We talked about our countries, cultures, ways of thinking, and school life. Sharing these stories was very fun. Housemates who had stayed for more than one year told us about good places to visit in Hawaii and stories about our host parents. Because of them, I felt closer to Hawaii and our host family.

With housemates from the same school, we went out after school, climbed Diamond Head, and watched the sunrise together on the last morning. When we got on the wrong bus, they worried about us like real family members. Through these experiences, I felt that we be-

came very close. Now it is not easy to meet them, but talking and laughing together is a very important part of my memories in Hawaii.

What I Learned from Living Together

At first, I was worried about living together with others. However, we soon became close. We watched videos together at night, tried speaking only English, and laughed a lot when unexpected things happened. We stayed in a room for three people, so we had little time alone. However, I came to enjoy spending time together so much that I did not need time alone. I think living so close to people of the same age is one of the good points of this program. I often make mistakes, but I was able to live in a new place because my host family and housemates were there for me.

On the day we went home, we did not want to leave and we cried. Then our host father said, "There is no 'goodbye' in Hawaii." He told us that people say "Aloha" instead. He also said that we could come back anytime. His words made us feel warm and comforted.

I want to visit Hawaii again and see those kind people and that beautiful town. The days I spent in Hawaii are very special to me and I will never forget them. Someday, I hope to meet my host family and housemates again.



ハワイでの生活

経営情報学科 2年 高西瑠華

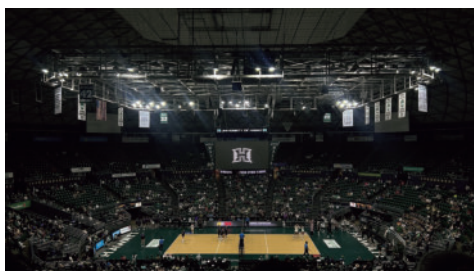
平日

私たちが参加していたハワイ大学の NICE プログラムは、平日のお昼から夕方まで授業がありました。なので、学校の前と放課後はみんな自由な時間を過ごしました。最初のうちは、遅延や早着が多いハワイのバスに惑わされなかなか上手に朝活をすることができなかったのですが、慣れてくるといろんなところに行くようになりました。私は家の近くにグリーンスターボックスがあったので朝活をしに行ったり、マラサダが有名なレナズベーカーリーに行ったり、学校のブックストアにハワイ大学のグッズを買いに行ったりしました。最終日に近づいた頃には、お土産を買い足すために少し遠いアラモアナセンターまで行くこともありました。また、キャンパスの中にもスターボックスやサブウェイ、アサイー屋さんなどがあったので、授業前に少し寄ってお昼ご飯を食べることもありました。放課後になるとまずはキャンパスセンターと呼ばれるホールに集まることがみんなの恒例になっていました。今日あったことを話して、休日の予定を考えて、ホストファミリーの話をして、とても幸せな時間でした。そのまま何もせずにそれぞれの家に帰ることもあります。みんなでアラモアナまで買い物に行ったり、ジムに行ってみたり、バスケットをしたり、学校に残って企業訪問のための作戦会議をしたり、誕生日を祝ったり、ホームパーティーをしたり、バレーの試合を見に行くこともありました。毎週金曜日にワイキキビーチの方で花火が上がるという情報を得たので見に行きました。12人みんなで見に行くことができて、幸せな時間を過ごすことができました。

休日

学校の無い休日は予定をばんばんに詰め込みました。最初の週は学校のアクティビティでパールハーバーに行きました。感じたことのない雰囲気を感じて、貴重な経験になりました。ハワイに行く前に少し真珠湾攻撃について学んだのですが、より理解が深まりました。他にもワイキキビーチ

に行ってみんなで泳いだり、ダイヤモンドヘッドに登ったり、アメリカンフットボールの試合を見たりしました。ワイキキビーチは綺麗で、日本では見る事ができないであろう色の海でした。波に揺られながらみんなでゆったりして、写真もたくさん撮って、一番ハワイを感じた瞬間だったと思います。ダイヤモンドヘッドに登るのは思ったより大変でしたが、頂上から見えるビーチや山、ホノルルの街の景色が壮大で綺麗で、疲れが吹き飛びました。降りた所にちょっとしたお店があって、ステッカーやキーホルダーなどお土産を買うこともできました。そして、アメフトの試合に私たちは衝撃を受けました。大学生同士の試合なのにも関わらず、豪華な試合会場にたくさんの屋台が用意されていてとても大盛り上がりでした。ハワイにはプロのスポーツがないので、学生のスポーツが日本のプロスポーツのような人気を持っているそうです。多くの方がハワイ大学のグッズを身に付けていて、本当に人気があるんだなと思いました。いろいろな場所に遊びに行きましたが、何よりも忘れられないのは、みんなで見た夕日です。サンセットビーチで映画を見るイベントが開催されていて、12人で訪れました。その日の夕日は本当に綺麗で、一生忘れられない景色です。私たちはみんなで見ることが多かったと思います。みんなと一緒にいたからこそなんでも楽しめたんだなと改めて感じています。やってみたいことや行ってみたい場所が多くあって、3週間じゃ全然足りませんでした。毎日が充実していてあっという間でした！ハワイでの日常は特別なもので、みんなで体験したこと、食べたもの、見た景色、たわいもない会話、全部が宝物になりました。



Life in Hawaii

Ruka Takanishi

Weekdays

The NICE program at the University of Hawai'i that we participated in had classes from around noon to the evening on weekdays. Because of this, everyone had free time in the mornings before class and after classes. At first, we struggled to make good use of our mornings because the buses in Hawai'i often arrived early or were delayed, which was confusing. However, once we got used to it, we started going to many different places. There was a green Starbucks near my house, so I often went there in the mornings. I also visited Leonard's Bakery, which is famous for its malasadas, and went to the university bookstore to buy University of Hawai'i goods. As the final day approached, I went to Ala Moana Center to buy additional souvenirs. There were also Starbucks, Subway, and an acai shop on campus, so we sometimes ate lunch there before class. After classes, it became our routine to gather at a hall called the Campus Center. We talked about what happened that day, made plans for the weekend, and shared stories about our host families. It was a very happy and relaxing time. Sometimes, we just went straight home without doing anything. Other times, we went shopping at Ala Moana together, tried going to the gym, played basketball, stayed on campus to plan for company visits, celebrated birthdays, had home parties, or went to watch volleyball games. We also heard that fireworks were set off near Waikiki Beach every Friday, so we went to see them. All twelve of us were able to go together, and it was a truly wonderful moment.

Weekends

On weekends when there were no classes, we packed our schedules full. During the first week, we visited Pearl Harbor as part of a school activity. Experiencing the atmosphere there, which I had never felt before, was a very valuable experience. I had studied a little about the attack on Pearl Harbor before going to Hawaii, so visiting the site helped deepen my understanding. We also went swimming at Waikiki Beach, climbed Diamond Head, and watched an American football game. Waikiki Beach was beautiful, with a color of the ocean that I had probably never seen in Japan. Floating on the waves together, relaxing, and

taking lots of photos was the moment when I felt "This is Hawaii." Climbing Diamond Head was harder than I expected, but the view from the top—of the beach, the mountains, and the city of Honolulu—was magnificent and beautiful, and all the fatigue disappeared. At the bottom, there were small shops where we could buy souvenirs like stickers and keychains. The American football game left a strong impression on us. Even though it was a game between university students, the stadium was impressive and there were many food stands, creating an exciting atmosphere. Since Hawaii doesn't have professional sports teams, college sports are said to be as popular as professional sports in Japan. Many people were wearing University of Hawaii merchandise, and I could really feel how popular the team was. We visited many places, but the most unforgettable memory was watching the sunset. There was an event where a movie was shown at Sunset Beach, and all twelve of us went. The sunset that day was incredibly beautiful, and it is a scene I will never forget for the rest of my life. I think we spent most of our time together. Looking back, I truly feel that being with everyone made everything more enjoyable. There were so many things we wanted to do and so many places we wanted to visit that three weeks was nowhere near enough. Every day was meaningful, and time passed quickly.

Daily life in Hawaii was something special. Everything we experienced together—the things we did, the food we ate, the scenery we saw, and even our casual conversations—has become a priceless treasure.



総括 1

経営学科 2 年 雑賀龍清

異文化に触れる

この留学プログラムは僕にとって初めての海外経験でした。想像通り、ハワイの人達はとても優しく、フレンドリーで、自由でした。バスの運転手の方がいきなり目的地を聞いてきて、聞いてもないのに行き方を教えてくれました。また、車の荷台に乗っていたり、爆音で音楽を流してドライブしていたり、日本では考えられない自由なルールに驚きました。さらに、僕たちがバスケットコートでバスケをしていたところ、現地のストリートボーラーの方が声をかけてくれて、一緒にバスケをすることができました。1 番素敵だと感じたのは、ハワイの人達は、目が合った時に目を逸らすのではなくて、微笑んでくれることです。目を逸らされると少し悲しい気持ちや、気まずい気持ちになりますが、微笑んでくれると、嬉しいですし、気持ちがいいです。色々な考え方や個性を持ち、それを認め合うというハワイを始めアメリカの考え方は素晴らしいものだと感じました。

やってみることの大切さ

ハワイにいた 3 週間で感じたことは、臆さずにやってみるものの大切さです。日本人の多くは、ネイティブのような発音で英語を話すことにどこか恥ずかしさを感じて、わざとカタカナ英語で発音していると思います。英語で会話する時や注文する時も、何となくセンテンスにして話すことはできるのに、気恥ずかしさを感じて単語だけで話してしまうこともあると思います。僕自身英語に自信がありませんでしたし、拙い英語を話すことに恥ずかしさを感じることも多くあったため、そのような英語を使ってしまっていました。しかし、現地では現地人に伝わる英語を話さなければ何も分かってもらえませんし、話す言葉や発音をネイティブに近づけていかなければ、自分の英語力を鍛えることができません。そのため、留学中は担任の先生や現地学生に話しかけに行き、ネイティブの使う英語に多く触れるように努めました。また、聞いた英語を真似したり、お店では、現地人が使っていた表現を自分も使ってみたり、ネイティブに近い英語を話せるように取り組みました。クラスでは、担

任の先生に毎日追加で課題を出してもらい、授業後に添削してもらいました。恥ずかしい気持ちや、尻込みする気持ちに負けず、やってみる、声をかけてみる、真似してみると、意外と自分が思っていたよりもそれが良い方向に繋がるということを実感しました。

高め合う

今年、このプログラムに北海学園大学からは僕を含めて 12 人が参加しました。初めは、こんなに人数がいると留学先でもあまり日本での環境と変わらず、留学の 1 番の目的である「異文化の中で英語だけの生活を送る」ことが果たせないのではないかと思っていました。しかし、実際にハワイでの 3 週間は、一人で行く留学とは違う刺激をみんなから受けることができました。ルームメイトのみんなと、「今日こんなことがあって、こんな英語を使ってみた」、「23:00 まで英語で会話してみよう」と、1 人では生まれないコミュニケーションの時間が生まれて、1 人では得られなかったボキャブラリーを得ることができました。また、みんなが毎日投稿するブログを読んで、みんなはこんなことを頑張ってるんだ、みんなのクラスではこんなことをやってるんだ、と自分も頑張ろうと思えるきっかけになりました。実際、僕は留学期間中に、英語を思うように話せないことや、クラス内の人間関係など、上手くいかないことがいくつもありました。そんな中、みんなの頑張ってる姿を見たり、みんなと話したりする時間は僕にとってとても大切な時間でした。そんな高め合える仲間に出会えたことこそがこのプログラムに参加して得られた 1 番の財産だとすら感じています。



Summary

Ryusei Saiga

Crossing Cultures

This study abroad program was my first time traveling overseas. Just as I had imagined, people in Hawaii were very kind, friendly, and free-spirited. One day, a bus driver suddenly asked me where I was going and explained how to get there, even though I had not asked. I was surprised by the free lifestyle in Hawaii, such as people riding in the back of trucks or driving while playing loud music, which would be unthinkable in Japan.

Another memorable experience was when my friends and I were playing basketball at a court, and a local street basketball player talked to us and invited us to play together. Through these experiences, I felt the openness of Hawaiian culture.

What I found most wonderful was that people in Hawaii smile at you when your eyes meet, instead of looking away. When someone looks away, it can feel a little sad or awkward. However, when someone smiles at you, it makes you feel happy and comfortable.

People in Hawaii, and in the United States in general, have many different ways of thinking and unique personalities, and they respect each other's differences. I felt that this way of thinking is truly wonderful.

The Importance of Trying

What I learned during the three weeks in Hawaii is the importance of trying without being afraid.

Many Japanese people feel embarrassed about speaking English with native-like pronunciation, so they sometimes choose to use katakana-style English on purpose. Even when we can make full sentences in English, we may feel shy and end up speaking using only single words when having conversations or ordering food.

I was the same. I was not confident in my English, and I often felt embarrassed about speaking broken English. Because of that, I avoided speaking as much as I could. However, in Hawaii, if I did not speak English that local people could understand, nothing would be communicated. Also, if I did not try to make my pronunciation and expressions closer to native English, I could not improve my English skills.

For this reason, during my study abroad, I actively talked to my homeroom teacher and local students so that I could be exposed to real, natural English. I tried to copy the English I heard, and at shops, I used expressions that local people were actually using. I made an ef-

fort to speak English that was closer to native English.

In class, I asked my teacher to give me extra assignments every day, and I had them checked after class. By not giving in to feelings of embarrassment or fear, and by trying, speaking up, and imitating others, I learned that these actions often lead to better results than I had expected.

Mutual Growth

This year, 12 students from Hokkai-Gakuen University, including myself, joined this program.

At first, I was worried that having so many Japanese students would make the experience feel similar to life in Japan. I thought we might not achieve the main goal of studying abroad: living only in English in a different culture.

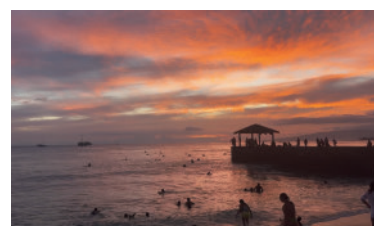
However, the three weeks in Hawaii were very different from studying alone. I received a lot of stimulation from the people around me. With my roommates, we often shared things like, "This happened today, and I tried using this English," or we challenged ourselves by saying, "Let's talk only in English until 11 p.m."

These moments of communication would not have happened if I had been alone, and thanks to them, I learned vocabulary that I could not have learned by myself.

Also, by reading everyone's daily blog posts, I could see how hard they were working and what kind of classes they were taking. This motivated me to work harder as well.

During my study abroad, I faced many difficulties, such as not being able to speak English as well as I wanted and struggling in class. In those times, watching everyone work hard and spending time talking with them became very important to me.

Meeting friends who encouraged each other and grew together is, I believe, the greatest treasure I gained from this program.



総括 2

経営学科 3 年 堂坂美友

「経験は財産」。私が人生で一番大事にしている言葉です。この言葉の通り、ハワイで過ごした3週間、海外総合実習に挑戦した経験は唯一無二の財産となりました。本書を読み進める中で、ハワイについて・学校生活・ホームステイなどあらゆるテーマについて各々の言葉で書かれていたと思います。この3週間で起きた全ての事象が私たち全員の宝物になりました。

縁

私は唯一の3年生として参加し、他の11人は2年生でした。もしこの海外総合実習がなければ、きっと知り合うことはなかったと思います。はじめのうちは、「どんな話をしたらいいのだろう」「気を遣ってくれる後輩たちにどう接すればいいのか」と戸惑うこともありましたが、8月24日に国際線の飛行機を降りてからの3週間、ハワイで共に過ごすうちに、そんな悩みはすっかり消えて、みんなのことが本当に大好きになりました。全員の中に尊敬できる部分を見つけられたことは、私の自慢です。

ハワイ大学でのプログラムには、日本全国から学生が集まっており、学年も住む地域も異なる人たちと、国外で一緒に授業を受けていること自体が、まさに「縁」だと感じました。もう一生会えないかもしれないという儚さもありましたが、その分、一瞬一瞬を大切に過ごすことができました。

そして、もう一つ強く「縁」を感じたのがホームステイでの出会いです。同じ家には、NICEの学生として北海道から3人、大阪から2人、東京から2人が滞在していました。そのほかにも、他大学から留学に来ていた千葉の学生や、ベルギーから来ていた留学生、数年ぶりにハワイで英語を学び直している社会人の方もいました。全員の滞在期間が重なっていたわけではありませんが、常に8人ほどの学生が暮らしており、夜ご飯の時間に語り合ったり、休日に出かけたりするうちに自然と仲良くなりました。

もう一度ハワイに行く機会があっても、同じメンバーで同じ家に集まり、夜ご飯を食べながらその日の出来事を話したり、食器を洗いながらお菓子をつまんだりする時間は、もう二度と戻ってきません。そう考えると少し寂しさもありますが、それと同時に「今この瞬間を大切にしたい」と強く感じました。ハワイでの3週間で出会った人たちのご縁は、偶然ではなく必然のように思えます。国や地域、年齢も違う私たちが同じ場所で時間を共有できたことは、私にとってかけがえのない経験です。これから先、それぞれが違う道を歩んでも、この出会いを通して得たつな

がり学びは、私の人生の中で確かな財産になっています。

挑戦

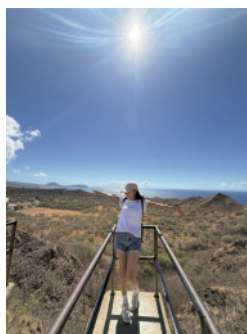
冒頭にも記載しましたが、私がこの3週間で挑戦したことは2つあります。

1つ目は「知らないコミュニティに飛び込むこと」。今までの私は、新しく友達を作ることや自分から話しかけることに不安を感じ、なかなか行動に移せませんでした。しかし、黙っては何も始まらない環境の中で、思い切って自ら声をかけるように心がけました。海外総合実習の仲間やホームステイ先の家族、ハワイ大学で出会ったクラスメイトなど、さまざまな人との関わりを通して、初対面の人でも自分から関係を築けるようになりました。

2つ目の挑戦は「苦手な英語を克服すること」。授業や日常生活の中で、自分の英語力が足りずコミュニケーションがうまくできなくて悔しい場面がありました。そのたびに「伝えたい気持ち」を大切に諦めずに話しました。先生に相談して、言葉に詰まった時の話のつなぎ方を学んで実践したり、ジェスチャーを交えたり、少しずつ自分の言葉で表現できるようになりました。この2つの挑戦を通して、「行動すること」と「伝えようとする姿勢」の大切さを実感しました。失敗を恐れずに一歩を踏み出す勇気が、私を大きく成長させてくれたと感じています。

成果

この3週間で出会った「縁」と積み重ねた「挑戦」は、私の中でかけがえのない財産になりました。たくさんの人との出会いの中で自分に自信がつき、孤独を恐れずに行動できるようになりました。多様な価値観に触れて世界が広がり、周りと比べるよりも自分らしく生きることの大切さを実感しました。これからもこの経験を糧に、新しい環境でも臆せず挑戦し続けられる自分でありたいです。



Summary

“Experience is an asset.” This is the most important phrase in my life. As this phrase shows, the three weeks I spent in Hawaii and my challenge of joining the Overseas Comprehensive Training became a one-of-a-kind asset for me. While reading this report, I believe each student wrote about many topics such as Hawaii, school life, and homestay in their own words. Everything that happened during these three weeks became a precious memory for all of us.

Connection

I joined this program as the only third-year student, and the other eleven students were second-year students. If I had not joined this Overseas Comprehensive Training, I would probably never have met them. At first, I was worried about what to talk about and how to act with my juniors who were being very considerate of me. However, during the three weeks we spent together in Hawaii after getting off the international flight on August 24, those worries gradually disappeared, and I came to truly like everyone. I am proud that I was able to find something I respect in each person.

In the program at the University of Hawaii, students came from all over Japan. We had different grades and lived in different regions, but we took classes together outside Japan. I strongly felt that this was a meaningful “connection.” I also felt a sense of sadness, thinking that I might never meet some of them again. Because of that, I was able to value each moment even more.

I also strongly felt “connection” through my homestay experience. In the same house, three students from Hokkaido, two from Osaka, and two from Tokyo stayed as NICE students. In addition, there were students from other universities, a student from Chiba, an exchange student from Belgium, and a working adult who had returned to Hawaii to study English after several years. Not everyone stayed at the same time, but about eight students usually lived together. By talking during dinner and going out on weekends, we naturally became close.



Miyu Dosaka

Even if I have another chance to go to Hawaii, the time we spent eating dinner together, talking about our day, and eating snacks while washing dishes with the same members will never come back. Thinking about this makes me feel a little sad, but at the same time, it made me strongly feel that I should cherish the present moment. The connections I made during these three weeks in Hawaii do not feel like coincidence, but rather something inevitable. Sharing time with people from different countries, regions, and ages in the same place was an irreplaceable experience for me. Even if we walk different paths in the future, the connections and lessons I gained through these encounters will remain valuable assets in my life.

Challenge

As mentioned at the beginning, there were two main challenges I took on during these three weeks. The first challenge was “jumping into an unfamiliar community.” Before this program, I often felt anxious about making new friends or starting conversations by myself, and I found it difficult to take action. However, in an environment where nothing would happen if I stayed silent, I tried to speak up on my own. Through interactions with my program members, my homestay family, and classmates at the University of Hawaii, I became able to build relationships even with people I had just met. The second challenge was “overcoming my weakness in English.” There were many times when I felt frustrated because my English ability was not strong enough to communicate well in class or daily life. Each time, I focused on my desire to communicate and did not give up. I asked my teacher for advice and learned how to connect my ideas when I could not find the right words. I also used gestures and simple expressions. Little by little, I became able to express myself in my own words. Through these two challenges, I realized the importance of taking action and trying to communicate. I feel that the courage to take one step forward without fearing failure helped me grow a lot.

Result

The “connections” I made and the “challenges” I took on during these three weeks became invaluable assets for me. Through meeting many people, I gained confidence and became able to act without fearing loneliness. By experiencing diverse values, my view of the world expanded, and I learned the importance of living in my own way rather than comparing myself to others. I want to continue challenging myself in new environments without hesitation, using this experience as a foundation for my future.

Part Two. 北海学園大学経営学部英語

北海経営 English (Hokkai Business English : HBE)

北海学園大学経営学部では、入学から卒業まで一貫した英語教育プログラム「北海経営 English (Hokkai Business English : HBE)」を展開しています。海外総合実習をはじめとする多様な学修機会を通して、学生が英語に日常的に触れ、実践的に使いこなせる力を段階的に育成することを目指しています。

HBE は、1・2年次の「総合実践英語」と3年次の「ビジネス英語」を柱とする体系的なカリキュラムです。基礎から応用へと着実にステップアップしながら、最終的にはビジネスの現場で通用する英語運用能力を身につけることを目標としています。

基礎力を育てる1・2年次「総合実践英語」

1・2年次の「総合実践英語」では、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく伸ばし、社会で求められる英語コミュニケーション能力の基盤を築きます。

1年次には、英語を正確に読み取り、自らの考えを論

理的に文章で表現する力を養う科目と、英語で円滑にコミュニケーションを行う力を高める科目を履修します。ディスカッションやプレゼンテーションなどの活動を通して、実践的な英語運用能力を育成します。

2年次には、読解力をさらに深める科目、エッセイやレポート作成能力を高める科目、ディスカッションや発表能力を伸ばす科目などから選択し、より専門的な内容に取り組みます。英語で自分の意見を伝える力を重視した授業が展開されています。

3年次「ビジネス英語」―実践力を磨く

3年次には、ビジネスの現場を想定した専門科目が開講されます。ビジネス文書作成、会議でのコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーション、専門英文読解などを通して、実務で活用できる英語力を養います。卒業後すぐに活用できる実践的スキルの習得を目指します。



自分たちで考案したオリジナル製品のポスター発表をする様子 (2年次コミュニケーション・ストラテジーB)

ビジネス英語科目一覧

科目名	開講学期	概 要
ビジネス・ライティング	第1学期	Eメールを中心にビジネス文書の書き方を学ぶ。
ビジネス・コミュニケーション	第1学期	ビジネスミーティングでの英語の使い方を習得する。
ディスカッション・スキル	第1学期	ビジネスの場面で意見を述べ、議論をリードする能力を養う。
ビジネス・プレゼンテーション	第2学期	効果的なプレゼンの構成や表現方法を学び、実際に発表を行う。
ビジネス・リーディング	第2学期	経営やマーケティング関連の英文資料を読み解くスキルを向上させる。
ビジネス・ディスカッション	第2学期	ビジネスシーンを想定し、英語でのディスカッション能力を高める。

英語演習（浦野ゼミ）

英語演習（浦野ゼミ）は、英語力の向上だけでなく、英語を将来と結びつける視点と、自ら考え行動する力を育てることを大切にしています。活動内容はゼミ生自身の話し合いによって決定され、主体性を重んじる運営が

特徴です。

Instagramを活用した地域情報の英語発信や、ゲストハウスや日本語学校での異文化交流イベントなど、学外での実践的な活動も積極的に行っています。英語を社会とつなぐツールとして活用する経験を通して、語学力だけでなく企画力や協働力も育まれています。



市内の日本語学校での留学生との交流イベント（浦野ゼミ）



北海学園大学 経営学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40

地下鉄東豊線「学園前」駅3番出口直結（札幌駅より6分）

TEL.(011)841-1161 (代)

経営学部ホームページ <https://ba.hgu.jp>